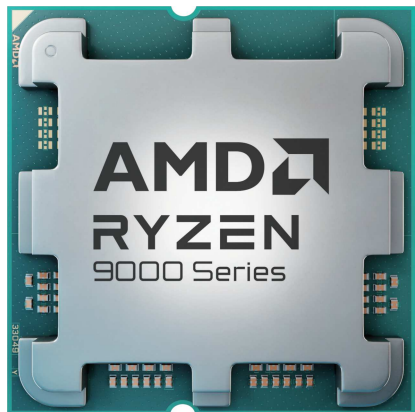


Socket AM5なら最新CPUの『AMD Ryzen 9000』で自作がオススメ



動作クロックの向上と消費電力低減を両立

◀CPUの動作クロックを引き上げつつ、TDP（消費電力）を大きく低減。Zen 5ベースで性能が向上しただけなく、さらに自作向けのCPUとなったといえるのだ。

さらなる性能向上
CPUコア強化で

AMDの目玉は8月に登場したばかりの新CPU「AMD Ryzen 9000」シリーズだ。AMDの新しいCPUアーキテクチャ「Zen 5」を採用しており、CPUコア部分を強化したことで性能がさらに向上している。CPUの動作クロックを引き上げる一方でTDP（消費電力）を大きく低減しており、発売前から自作PCユーザーの熱い注目を浴びているCPUなのだ。

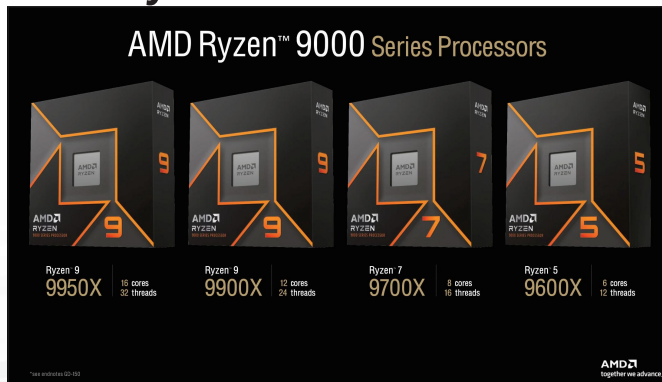
AMD Ryzen 9000シリーズは、16コア/32スレッドの「AMD Ryzen 9 9950X」、12コア/24スレッドの「AMD Ryzen 9 9900X」、8コア/16スレッドの「AMD Ryzen 7 9700X」、6コア/12スレッドの「AMD Ryzen 5 9600X」から構成されており、既存のAM5対応マザーボードならBIOS（UEFI）をアップデートするだけで利用できる点が大きなメリットだろう。新CPUを従来の自作PCで使いつつ、予算ができた最新チップセットを採用したマザーボードに交換するというのがおすすめだ。

「AMD HEROS」で詳細をチェック!



◀「AMD Ryzen 9000」シリーズはコア数/スレッド数の異なるCPUがラインナップ。「AMD Ryzen 7 9700X」「AMD Ryzen 5 9600X」はTDP（消費電力）が65Wと低めだ。

「AMD Ryzen 9000」シリーズは4種類で構成



グラフィックボードいらず、Socket AM5のRyzen 8000Gで自作

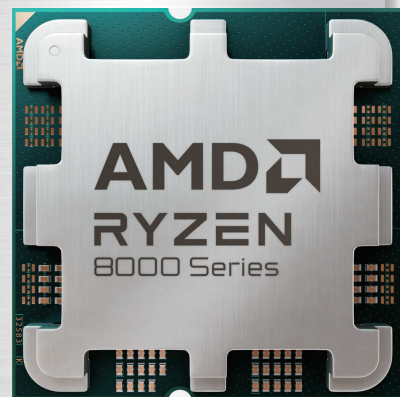
ゲーミングデスクトップの自作に挑戦したい人なら、「APU」（GPU統合型CPU）にも注目してほしい。その代表例といえる「AMD Ryzen 8000G」シリーズは、内蔵GPUの「AMD Radeon 700M」シリーズを採用しているため、グラフィックボードなしでもゲームを満喫できる。また、グラフィックボードを後から追加してパワーアップするという自作PCらしい楽しみ方も可能だ。

例えば「AMD Ryzen 7 8700G」の場合、フルHDおよびグラフィック品質「低」設定という条件では、多くのゲームでフレームレートが60fpsを超える。ここまで高い数値をたたき出せる理由は、内蔵GPUのAMD Radeon 700Mシリーズが優れているだけでなく、AMDの独自

技術「AFMF」（AMD Fluid Motion Frames）も利用できる点にある。

AFMFはゲームのフレームレートを向上させる技術で、ゲーム側ではAFMFに対応するための開発作業が必要ないため、すでに数千タイトルで利用できる状態だ。2024年第4四半期に公開予定のAFMF 2では、さらなる性能の向上や低遅延化が図られるようだ。

APU名	内蔵GPU
AMD Ryzen 7 8700G	AMD Radeon 780M
AMD Ryzen 5 8600G	AMD Radeon 760M
AMD Ryzen 5 8500G	AMD Radeon 740M



↑「AMD Ryzen 8000G」シリーズは、GPUとして「AMD Radeon 700M」シリーズを内蔵。そのおかげでグラフィックボードなしでもゲームを楽しめる。